翔

百万石蝶談会　No. 137

April 1999

石川県におけるムネアカセンチコガネの記録

富 沢 章

1998年、筆者は加賀市錦城山の昆虫調査のおり、本県では採集記録の少ないムネアカセンチコガネを採集した。その後、追加記録が相次ぎ、さらに２ヶ所において本種が記録された。本種は、「石川県の昆虫」（1998）には掲載されていないが、過去に採集例があることも判明したので、ここではこれまでの本種の記録をまとめて報告する。

◆泉（1957）の記録

羽咋郡志賀町火打谷にあった「石川県林業場」に設置されていた青色蛍光灯の誘蛾灯に飛来したものである。昭和28～31年の４年間の５月～９月まで毎日調査した結果、合計59頭が誘殺されている。したがって、１年あたり平均、約15頭が記録されたことになる。なお、この文献からは具体的な採集月日や年間の誘殺消長がわからない。

◆井村（1991）の記録

本種の１♂の死骸が自家用車内で見つかった記録である。したがって、どこに生息していたか不明であるが、井村氏によれば、県内に間違いないという。

◆金沢市野田山　１頭（死骸）　１９８？年７月１５日　入場　登採集

野田山墓地で見つけたものである。

◆加賀市錦城山　１♂　１９９８年６月３０日　富沢　章採集

午後４時頃､頂上付近の地上50ｃｍの低い所を２頭がもつれ合って飛んでいたもので、そのうち１頭を採集した。

◆加賀市錦城山　１♀　１９９８年７月２６日　富沢直浩採集

上記の採集地点付近に設置した100ｗ水銀灯に飛来したものである。

◆石川郡鶴来町八幡　１♀　１９９８年７月１８日　平松新一採集

昆虫館の建物周辺に落ちていた個体で、おそらく灯火に飛来したものと思われる。

◆加賀市黒崎　１頭　１９９８年９月４日　中町　健採集

黒崎小学校のプール内で拾った個体であり、採集時は生きていたという。

上記の記録をみると、本種は加賀地方から中能登の平地、低山地に少ないながら広く分布しているものと思われる。

最後に本種に関する文献を提供していただいた松井正人氏、本種の採集状況について教えていただいた納屋義雄氏および採集者各位に対して感謝申し上げる。

《 参考文献 》

石川むしの会・百万石蝶談会（1998）石川県の昆虫．537pp．石川県．

泉　總能輔（1957）火打谷のコガネムシ．とっくりばち(３)：２－６．

井村正行（1991）ムネアカセンチコガネを採集．翔(89)：15.

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町３丁目７１》

手取川水系尾添川のギフチョウ

松 井 正 人

手取川の周辺には、上流から下流にかけてギフチョウの発生地が多々知られている。有名な白峰村の赤谷・小赤谷もそうであり、河内村福岡もそうである。いずれの地でもヒメカンアオイが食草となっているが、ウスバサイシンやフタバアオイも分布している。この手取川水系のギフチョウ、尾添川周辺からはまだ知られていない。

◆ブナオ山観察舎での目撃情報

手取川本流から尾添川を10km程遡ると、石川県営のブナオ山観察舎があり、冬季に対岸の山毛欅尾山（ぶなおやま）で採餌するカモシカの絶好の観察ポイントになっている。ここでギフチョウが目撃されている。

1992年４月29日　石川県石川郡尾口村ブナオ山観察舎　１頭目撃　田中 稔 目撃

これが、尾添川周辺におけるギフチョウの初情報である。ブナオ山観察舎周辺では食草調査は行われていず、急遽付近を調査したがヒメカンアオイは発見できなかった。目撃者の田中 稔氏は昆虫とは無関係の人なので、見まちがいだろうと思っていた。

◆山毛欅尾山での目撃情報

同一人物により、ブナオ山観察舎からは尾添川の対岸にある山毛欅尾山の800m付近でも、ギフチョウが目撃されている。

1995年５月７日　石川県石川郡吉野谷村山毛欅尾山800m付近　１頭目撃　田中 稔 目撃

一里野から尾添川を渡って中宮発電所に至る道があり、ここから導水管に沿って階段を登ると発電所の調整池に出る。ここから尾根沿いに登ると山毛欅尾山に至るが、この道にカタクリがたいそう多くピンクの花で埋め尽くされ、この花の周りを飛んでいたらしい。カタクリにギフチョウとなると可能性は高い。調査に行こうと思っていたが、延び延びになって現在に至っている。心のどこかでやっぱり怪しいと思っていたのかも知れない。

◆ウスバサイシンの発見

1998年、ブナオ山観察舎付近で別の調査をしていたところ、観察舎前を走る白山スーパー林道の急峻な川側斜面で偶然にウスバサイシンが見つかった。県内ではウスバサイシン食のギフチョウは知られていないが、白山スーパー林道を岐阜県側に下ると、ギフチョウはウスバサイシンを食べている。２例の目撃情報と食草の発見、尾添川のギフチョウは確実味を帯びてきた。

尾口村の車横付けポイントで探すか、吉野谷村のカタクリ絨毯ポイントで探すか、白峰村赤谷でギフチョウが確認されて12年、久々に新しいポイントが見つかるか。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

１９９８年アサギマダラ日記

松　井　正　人

◆５月17日　晴　白山地方へ初調査

今年は季節が早く、アサギマダラは４月から目撃され、食草も伸びている。昨年幼虫を観察した尾口村一里野で、オオカモメヅルから卵を捜したが、発見できなかった。吉野谷村雲龍山の麓では、オオカモメヅルを捜している時にアサギマダラが１頭飛来した。

1998年５月17日　石川県石川郡吉野谷村雲龍山　１頭目撃　松井正人

◆５月20日　晴　金沢市で今年初の産卵を確認

すがすがしい青空のもと、吉次山林道で飛翔中のアサギマダラ２頭を目撃し、南方からの飛来を実感する。その後、高尾山登山道を登っていると、林内にアサギマダラが１頭飛んでいた。飛び方がおかしいので観察していると、辺りにオオカモメヅルがあり産卵しているようだった。暗くて産卵そのものは観察できなかったが、産卵直後の２卵を確認した。この時期、飛来した♀が各地に盛んに産卵しているようだ。

1998年５月20日　石川県金沢市吉次山　２頭目撃　松井正人

1998年５月20日　石川県金沢市高尾山　１♀目撃２卵採集　松井正人

この２卵は、６月25日に１♂が、６月27日に１♀が羽化し、マーキングして自宅から放蝶した。

◆６月13日　くもり時々雨　白山地方で幼虫調査

白峰村の六万山で、林道脇のイケマから３齢幼虫２頭を確認。林道終点の別当出合では、駐車場にあるイケマの大株を調査したが、陽当たりが良すぎるのか、幼虫、卵共に発見できなかった。５月17日に調査した尾口村一里野で再び調査するが、食痕すら発見できない。その後、過去に幼虫を観察している尾口村三又発電所、吉野谷村途中谷のイケマを調査したが、イケマそのものが発見できなかった。日陰の貧弱なイケマは枯れたのだろうか。

1998年６月13日　石川県石川郡白峰村白山六万山　２幼採集　松井正人

この２幼は、７月５日に１♂１♀が羽化し、マーキングして自宅から放蝶。

◆６月14日～７月19日 珠洲市宝立山で継続調査

６月14日、社付近の歩道でアサギマダラの好みそうな日陰のオオカモメヅルを発見し、継続調査を始める。６月28日までは産卵されていなかったが、７月13日には５株から７卵を確認した。７月18日の調査では２株から２齢幼虫４頭を確認しただけで、その他の幼虫は発見できなかった。18日の夜は宝立山で車中泊し、19日早朝６時に飛翔するアサギマダラ１♀を発見。樹上７m位に止まった所をなんとか採集し、マーキング。

1998年７月13日　石川県珠洲市宝立山　７卵目撃　　松井正人
1998年７月18日　石川県珠洲市宝立山　４幼目撃　　松井正人
1998年７月19日　石川県珠洲市宝立山　１♀マーキング　松井正人

◆７月19日　晴　輪島市鉢伏山でマーキング

宝立山から鉢伏山へ回ってビックリ仰天。ピーク付近北側のスギ林にヨツバヒヨドリがいっぱい咲いていて、日陰のヨツバヒヨドリにアサギマダラが鈴なり。次から次へとマーキングしても、アサギマダラはいっこうに減らない。日なたは暑いが、日陰は26度と涼しい。しかし陽が当たらないためいつまで経っても露が乾かず、お尻から下はずぶぬれになってしまった。時折日なたに出るとめまいがしそうな程暑く、そんな中をせわしなく飛び回るヒョウモンチョウの仲間は、日陰のヨツバヒヨドリでのんびり吸蜜しているアサギマダラとは対照的だった。この日は前翅長を計るものさしを忘れたので、♀だけは前翅の大きさを野帳に写し取り、４時間半で146頭にマーキングした。

1998年７月19日　石川県輪島市鉢伏山　115♂31♀マーキング　松井正人

◆７月25日　晴　白峰村釈迦林道でマーキング

去年発見したブナ林の日陰ポイントは、ヨツバヒヨドリにアサギマダラが鈴なりの筈だったが、全くいない。12時を過ぎてからポツポツ飛来するようになったが、場所が広いうえに足場が悪い急斜面、大変疲れた。

1998年７月25日 石川県石川郡白峰村白山釈迦林道　15♂4♀マーキング　松井正人

◆８月２日　くもり後大雨　白峰村釈迦林道でマーキング

去年と同じ場所へ同じ時期にやってきたが、天気が悪い。午後からは大雨になりほとんどマーキングできなかった。

1998年８月２日　石川県石川郡白峰村白山釈迦林道　２♂マーキング　松井正人

◆８月８日　くもり　押水町宝達山のマーキングはハズレ

宝達山にアサギマダラはいなかった。かろうじてオオカモメヅルから８㎜と脱皮直後の13㎜の幼虫を発見。帰り道、中腹で１頭、登山口で１頭を車の窓越しに発見したがマーキングできず。

1998年８月８日　石川県羽咋郡押水町宝達山　１頭２幼目撃　松井正人
1998年８月８日　石川県羽咋郡押水町東間　　１頭目撃　　松井正人

◆８月30日　くもり　白峰村釈迦林道で突然の花粉症

８月は天気に恵まれない。アサギマダラの集団にも会えず、悲惨な目に会った。草むら

を歩くとヨモギの花粉が大量に飛散。そのうち止まるところを知らないクシャミ、トロトロ鼻水、あげくは目の充血、かゆみと、春のスギ花粉の時と全く同じ症状が出てしまい、マーキングどころではなかった。

1998年８月30日　石川県石川郡白峰村白山釈迦林道　４頭目撃　松井正人

◆９月３日　晴　輪島市鉢伏山で大災難

最近マーキングに出かけると調子が悪い。この日も鉢伏山で１頭を目撃しただけだった。でこぼこ道を通って高洲山へ回っても何にも飛んでいず、でこぼこ道を再び鉢伏山へ戻ってみたもののやっぱり何もいない。まだ昼前なので、宝立山でも行こうかとしたところ車が動かない。ミッションオイルが漏れていて、苦労話の始まりとなった。

1998年９月３日　石川県輪島市鉢伏山　１頭目撃　松井正人

◆９月５日　晴のちくもり　押水町宝達山でマーキング

宝達山にアサギマダラがやってきた。神社前の雑木林の中を飛んでいる。この中にコシアブラの大木があり、アサギマダラがいっぱい吸蜜しているが、木が大きくて網が届かない。木を揺すって騒がしても、ちょっと飛んではまた吸蜜に戻ってしまう。ところが、午後になるとお腹が膨れたのか吸蜜を止め、たくさんのアサギマダラが林内を飛び始めた。

1998年９月５日　石川県羽咋郡押水町宝達山　40♂24♀マーキング　松井正人

◆９月12日　晴　輪島市鉢伏山でイケマ発見

９月３日に故障した車を受け取りに輪島へ。そのまま鉢伏山に向かったものの、アサギマダラはいなくて、ポツポツ咲いているヨツバヒヨドリが寂しそう。スギ造林地の中で、イケマの大きな株を発見したのが今日の収穫だったが、幼虫は付いていなかった。

1998年９月12日　石川県輪島市鉢伏山　１頭目撃　松井正人

◆９月13日　晴　押水町宝達山でマーキング

現地に着くや、たくさんのアサギマダラがアザミにぶら下がっている。１本のアザミに10頭位吸蜜していたりしてビックリ。１時間程するとアザミのアサギマダラが減ってきたので、コシアブラの雑木林へ。ところがこちらにも余り飛んでいない。コシアブラの花は終わったのか、揺するとパラパラ実のようなものが落ちてきた。

1998年９月13日　石川県羽咋郡押水町宝達山　51♂57♀マーキング　松井正人

◆９月15日　雨　小松市大倉岳スキー場

アサギマダラが飛んでいるとの情報に出かけたが、あいにくの雨。ゲレンデ上部へも車で入れるのがありがたい。あちこちにコシアブラの大木があって花盛り。晴れていれば、

たくさん飛びそうと考えていたら、尾根を越えて１頭飛んできた。

1998年９月15日　石川県小松市大倉岳スキー場　１頭目撃　松井正人

◆９月20日　晴　押水町宝達山でマーキング

９月13日は、９時に到着したらアサギマダラが鈴なりだったので、今日は８時半に現着。予想通りアザミにたくさん止まっている。９時までに25頭をクリア。快調にマーキングしていると援軍が到着した。藤井 恒さんと長男の大樹君で、京都を５時に出発して宝達山にやってきた。３人でのマーキングは楽しくもあり効果も３倍。この日はブナ林の中でアサギマダラの交尾個体を観察し、交尾したまま♂♀にマーキング。枝に戻すと♀が羽ばたき、♂をぶら下げたまま飛び去った。

1998年９月20日 石川県羽咋郡押水町宝達山 105♂51♀マーキング　松井正人

1998年９月20日 石川県羽咋郡押水町宝達山　63♂58♀マーキング　藤井 恒・大樹

◆９月26日　晴　押水町宝達山でマーキング

雨の予報だったが、起きると晴。あわてて準備をして宝達山へ。22日の台風７号以後ずっと雨で、今日になってやっと晴れ上がった。アサギマダラはグッと少なくなり、アザミを訪れる個体ばかりで、雑木林を飛ぶ姿はほとんど見かけない。アザミへの訪花数には何度かピークがあり、小さな集団で移動しているような印象を受けた。

1998年９月26日　石川県羽咋郡押水町宝達山　32♂38♀マーキング　松井正人

◆10月４日　晴　押水町宝達山の移動は終了

10時まで雨だったが、その後は晴。しかし気温は15度以上に上がらず、パラボラアンテナが風にヒューヒュー鳴いている。アザミの花はまだ２割ほど残っているが、アサギマダラの姿は全くない。

◆10月28日 ビッグニュース

パソコンを叩いているとＥメイルが着信した。開いてビックリ、私がマーキングしたアサギマダラが、種子島で再捕獲されたとの内容だった。発信者は、鹿児島の福田晴夫さんで、種子島の錨 孝一さんによって再捕獲されたようだ。再捕獲個体は９月26日に宝達山でマーキングした「石ま５１４」。この個体が、29日後の10月25日に約850km離れた種子島の西表市古田で、再捕獲されたのだった。情報は、錨さん → 田中 洋さん → 福田晴夫さん → asagiメーリングリスト → 松井の順でもたらされたもので、関係された皆さんに感謝したい。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

医王山におけるコキマダラセセリの追加記録

嵯 峨 井 淳 郎

本種については、白山周辺で比較的よく採集され特段珍しいものではないが、金沢市医王山にて採集したので追加記録として報告する。

なお、医王山産については、澤田　博氏（1987年７月18日)、松井正人氏（1987年７月８日)、野中　勝氏（1990年７月27日）の記録が知られている。

１９９７年７月５日　石川県金沢市医王山　　１♂１♀採集　　嵯峨井 淳郎

《 参考文献 》

松井正人(1987)ススキよりセセリ２種を採集．翔(66)：３．

松井正人(1998)コキマダラセセリ．石川県の昆虫:343.

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷３-18-２》

１９９８年沖縄採集旅行記

細　沼　　宏

長期の根回しの末、やっと休暇をとることができ11月５日からの５日間、八重山諸島の西表・石垣島へ採集に行くことができた。今回の目的は昨年話題になったヒメウラボシシジミであったが、結果的にはジャングルに入る根性がなく、来年まで持ち越す結果になってしまった。

さて八重山の島々の魅力は、気候・風土はもちろんのこと、本土にいない蝶が採集できることと､運がよければ誰でも迷蝶に会える可能性を秘めたところにあるのかも知れない。特に今年は10月に八重山にかかる台風が襲来し、しかも島の北側を通過したことから迷蝶にとっての条件は整っていたはずなのに・・。なのに迷蝶どころか土着種も少なく、おそらく台風がフィリピン､台湾から蝶を運ぶ代わりに土着種を運び去ったものと考えられる。昨年も10月に与那国島、波照間島、石垣島へ行ったが、奄美大島への台風上陸のため強風が吹き荒れ、蝶の姿がなかったのに比べると曇天ではあったが天候に恵まれた方と考えられる。

11月５日、11時15分に関空を飛び立ち、西表、大原に着いたのは午後４時になっていた。当日は付近を散策した程度であったが、道をひょこひょこ横切る鳥（クイナ）と巨大なコウモリに遭遇したくらいであった。その晩、宿で会った関東からきた２人連れによると与

那国も蝶の数が少なく、迷蝶どころかスジグロカバマダラでさえ２桁採るのが困難なくらい蝶の数が少なく、与那国らしい蝶といえばクロテンシロくらいだったそうである。又、兵庫の甲虫屋は連夜ジャングルに入っている割には目的のクワガタがいないとぼやいていた。

11月６日からゼフ竿を担ぎレンタバイクで仲間川林道、南風見田、高那へ採集に出かけた。仲間川林道は西表西部の好採集地の１つで採集者も多く入っているが、今回目的にしていたリュウキュウウラボシシジミ、チャイロマルバネクワガタは確認できず、マサキウラナミジャノメ、ルリウラナミシジミ、ムラサキシジミがやたらと多く、時たま道沿いのセンダングサにツマムラダキマダラが飛来する程度であった。その中で特筆すべきものとしては林道最奥の展望台付近のセンダングサでウスイロオナガウラナミシジミ、キタテハを採ったのと、途中の橋付近でイワカワシジミ(♀)を採ったくらいであった。南風見田へは仲間川林道の帰りに寄った程度であったが、ヒメアサギマダラを採ることが出来た。当地は周回道路の一方の端で背後に山が控え南側にはセンダングサが一面に生えていて、風溜まりの地形から、かつて多くの迷蝶が採れた場所であったが、今は一面のセンダングサがサトウキビ畑に代わり、道路沿いにわずかに残ったセンダングサにリュウキュウアサギマダラが吸蜜している程度で、かつてを知る蝶屋には寂しい場所になってしまっていた。しかし、マルバネルリマダラがセンダングサで吸蜜していたり、ヒメアサギマダラが飛翔していたり、条件は悪くなったが、おもしろい場所には変わりないと思う。なお、ヒメアサギマダラは飛んでいるときもリュウキュウアサギマダラに比べやや小さく、白っぽく見えた。それ以後見つけた蝶はネットすることにしたが、全てリュウキュウアサギであった。

高那はここがヒメウラボシの場所と言われなければ、通り過ぎてしまう何の特徴もないところであった。大原から30分程の場所で、平坦な海岸線を走っている道路が内陸に入いり込んだところで左右を木立が覆い、所々海へ注ぐ沢が流れていた。ここはヒメウラボシシジミの他にマルバネルリマダラのポイントでもあり、マルバネを目的にした数人の蝶屋に会った。マルバネルリマダラは左右の藪の中から現れ、反対側の藪に消えていく。ポイントで待つか、１ｋｍ程の範囲を見回るか、どちらも成果に変わりはないようである。条件がよければ１日40～50匹は採れるそうだが、今回は多い人でも５匹程度であった。マルバネルリマダラは他のルリマダラ類に比べ堂々と飛翔し、飛翔中は丸く、大きく見える。ルリマダラ類の光輝く紫色が見えたときは採集本能がかき立てられ同時に南国にいることを実感した。

一方、ヒメウラボシシジミは10月始めが最盛期だったようで、周回道路上でも10匹程度は採れたと北海道の蝶屋が話してくれた。本来の採集ポイントは周回道路の両側のジャングル内で、飛び方はリュウキュウウラボシシジミと似ていて、色調から薄暗いジャングル内では曇天の日は見つけ難い様である。ポイント付近には多くの先人が切り開いた道があり、いろいろな色のテープがあちこちに印され、小道が縦横にできていた。マーキングし

ても、かえって自分の居場所が判らなくなりそうであった。最盛期から１ヶ月も経過しており、ほんの少し入ったところで来年に期待して引き返すことにした。

石垣島では西表からの移動日と帰りまでの約１日だけ時間があったため、８日は宿舎に荷を降ろし、直ちに昨年も行った嵩田林道へ出かけた。林道は両側からススキに覆われてはいたが、雨が降っていないのか乾燥していた。ジャコウアゲハ、キチョウ類、リュウキュウヒメジャノメ、ヤエヤマウラナミジャノメ、コウトウシロシタセセリがいたくらいで特別なものは採れなかった。 夕方にはところどころでルリタテハがテリトリーをはっていた。宿舎にしたなぎさ荘には「10月６日オモト岳入り口、シロウラナミシジミ（４♂２♀）」などの先人が残したメモが貼ってあったが、１ヶ月も経過していること、又詳細な情報がないことから特に気に留めなかった。その夜、同宿した名古屋の蝶屋から薄暗い中で２匹採ったと話をしてくれた。シロウラナミの八重山での食草、オモト岳入り口のメモ情報、翌日の予定がなかったことから狙ってみることにした。名古屋の蝶屋も翌日再度トライするとのことで同行させてもらえることになり、ルンルン気分で帰りの荷作りを始めた。又、８日は石垣島の１年に１回の祭りの日であったため、屋台の郷土料理を食べながら琉球舞踊を楽しむことができた。

11月９日朝、曇天ではあったが、10時ごろ東京の蝶屋の運転するレンタカーに同乗し出発した。発生場所はオモト岳麓の畑で、１匹とれればラッキーと思っていたのに15分程の間に３匹を採ることができた。その後、スコールに似た激しい雨になり、宿へ引き返すことになったが、採集してから雨が降ってきたことを考えても今回の採取旅行は恵まれていたと思う。なお、シロウラナミは畑に植えてあるウコンを食草としており、畑の中に入って叩けば20～30は採れたかも知れないが、地元住民とのトラブルを避けるため畑の周囲からゼフ竿が届く範囲の蝶を採集した。今後同地を訪れる方もトラブルを起こし採集禁止にならないように、一言断わり、作物を荒らさないように採集されることを願いたい。

追記として、西表島で高那への移動途中にシロオビヒカゲで有名な古見があり、夕刻を狙って竹藪を叩き回ったが、あちこちから犬に吠えられただけで１匹も確認できなかった。同宿した沖縄本島からの蝶屋によると最近は採れていないようで、むしろ高那の方で採れているようである。

西表島を訪れたのは20年ぶりであり、島の変貌には驚かされるばかりであった。当時は船を降りると物資を運ぶトラックでヒッチハイクをし、宿舎まで行き、採集には宿の車で途中まで送ってもらったことが思い出される。バス、タクシー、レンタバイクなどの移動手段ができ、短時間で広範囲の採集が可能になった反面、ジャングルがサトウキビ畑に代わっているのも事実であり、数少ない貴重な自然がこれ以上開発されないことを願って筆を置く。

種　名	11月5日	11月6日		11月7日		11月8日		11月9日	合計
	西　表　島						石垣島		
	大原	仲間川林道	南風見田	仲間川林道	高那	高那	嵩田林道	オモト集落	
ｶﾗｽｱｹﾞﾊ		3							3
ｱｵｽｼﾞｱｹﾞﾊ		1							1
ｸﾛｱｹﾞﾊ				2					2
ｼﾛｵﾋﾞｱｹﾞﾊ							1		1
ｼﾞｬｺｳｱｹﾞﾊ					2		2		4
ﾍﾞﾆﾓﾝｱｹﾞﾊ					1				1
ﾅﾐｴｼﾛﾁｮｳ					1		1		2
ｷﾁｮｳ		1				2			3
ﾂﾏｸﾞﾛｷﾁｮｳ						1			1
ﾀｲﾜﾝｷﾁｮｳ		4							4
ｲｼｶﾞｹﾁｮｳ		1							1
ﾔｴﾔﾏｲﾁﾓﾝｼﾞ		1					1		2
ｼﾛﾐｽｼﾞ		1			1				2
ﾙﾘﾀﾃﾊ							1		1
ﾒｽｱｶﾑﾗｻｷ		1							1
ﾘｭｳｷｭｳﾑﾗｻｷ				2			1		3
ﾔｴﾗﾏﾑﾗｻｷ				1					1
ｱｵﾀﾃﾊﾓﾄﾞｷ				2	5				7
ｷﾀﾃﾊ				1					1
ｵｵｺﾞﾏﾀﾞﾗ						1			1
ﾏﾙﾊﾞﾈﾙﾘﾏﾀﾞﾗ					2	1			3
ﾂﾏﾑﾗｻｷﾏﾀﾞﾗ		3		3	2	5			13
ﾋﾒｱｻｷﾞﾏﾀﾞﾗ			1						1
ｲﾜｶﾜｼｼﾞﾐ		1							1
ﾙﾘｳﾗﾅﾐｼｼﾞﾐ		6	15	3	4	1			29
ｳｽｲﾛｵﾅｶﾞｳﾗﾅﾐｼｼﾞﾐ		2	1						3
ｼﾛｳﾗﾅﾐｼｼﾞﾐ								3	3
ﾀｲﾜﾝｸﾛﾎｼｼｼﾞﾐ				2	1				3
ｼﾙﾋﾞｱｼｼﾐ					1				1
ﾔﾏﾄｼｼﾞﾐ		1							1
ｳｽｲﾛｺﾉﾏﾁｮｳ						1			1
ﾏｻｷｳﾗﾅﾐｼﾞｬﾉﾒ		12				5			17
ﾔｴﾔﾏｳﾗﾅﾐｼﾞｬﾉﾒ							1		1
ﾘｭｳｷｭｳﾋﾒｼﾞｬﾉﾒ		2		2	1		3		8
ﾀｲﾜﾝｸﾛﾎｼｾｾﾘ			1		2	1	1		5
ｺｳﾄｳｼﾛｼﾀｾｾﾘ				1			1		2
ﾈｯﾀｲｱｶｾｾﾘ						1			1
ｵｷﾅﾜﾋﾞﾛｳﾄﾞｾｾﾘ					1				1
その他セセリ	2	1			1				4

《ほそぬま ひろし 〒920-0276 内灘町緑台２－１２２》

り、これまで知られていなかった場所でも目撃している。今年は何処かで再確認されそうだ。

加賀市で春蛾の糖蜜採集

雪も溶け、待ち遠しい季節がやってきた。先陣を切ったのは富沢氏で、錦城山に糖蜜トラップをセット。日中は暖かかったものの日没後は急に寒くなり、蛾の飛来は少なかった。

塩屋海岸のツマグロヒョウモン

雪が積もらない海岸は、ツマグロヒョウモンの越冬に打ってつけと、ポカポカ陽気に幼虫捜しに出かけた松井氏だった。キタテハも飛び、汗をかく程だったが、幼虫の日向ぼっこは観察できなかった。

四十年ぶりのフタスジチョウ

一九九八年にフタスジチョウが採れていた。三回の調査で三雄一雌が採集されているが、場所は黒部峡谷。富山県科学文化センターから、一九九八年に「富山県の蝶」データ編が、一九九九年に解説編が発行され、この記録は解説編に載っている。写真の個体は白帯の幅がかなり広い。

昆虫採集禁止種・地区の一覧

全国各地には採集禁止の種や地区があり、うっかり採集もできない。この悩みを解決しようと、むし社は一九九〇年から種と地区の一覧の作成に取りかかっていたが、数が多すぎて二巻でストップしていた。このほど再開するらしく、五月一杯には全四巻を発行するらしい。

一巻、北海道・東北編
二巻、関東・甲信越・東海編
三巻、北陸・近畿・中国編
四巻、四国・九州・法規編

桜の開花予想と一番ギフ

三月三日気象庁から桜の開花予想が発表され、金沢は四月三日らしい。過去のデータからギフチョウの初飛は、開花予想の約二週間前で、今年は三月二十日となる。

虫屋が放つ虫の本「ゆずりは」

蝶研フィールド創刊から十三年、またまた虫屋が放つ虫の本が出る。仕掛け人は、大阪昆虫のゆずりは氏で、雑誌の名もずばり「ゆずりは」。季刊と月刊があり、月刊は会員制で予約購読しかできない。

一番ギフは何時飛ぶか調査隊

開花予想も何のそのと、十三、十四日の土日に繰り出した調査隊、フェーン現象の暑さの中にあっても一番ギフには、会えなかった。残念無念。

一番ギフに涙をのんだ調査隊

三月十八日ピーカンのゴッツイ良い天気に誘われた調査隊、今日こそはと意気込むが、女神はそう易々とはほほえんでくれなかった。

二十四日春は一番ギフと共に

ウグイスが鳴き、オオイヌノフグリが咲いても、春じゃない。やっぱりギフが飛ばなきゃ春じゃない。二十四日は、前日に増してポカポカ陽気となり、ついに春の到来となった。春到来調査隊の度重なる調査によって、二十三日には観察されなかった春が、二十四日になって観察された。

例会の記録

二月四日（木）城南管工二階にて八時から開催。

道路が凍結する二月例会は集まりが悪いが、初参加の三上氏を交え、ヒサマツミドリの話から始まった。

福井にいて富山にいて不思議なことに石川にいない。白山の周囲にはヒサマツの空白地帯が有る等々。

その他の話題では、三月からインドネシアへ八ヶ月、鮮麗華麗なアグリアス図鑑、カタログの様なアゲハ図鑑、猛威をふるう指田風邪、展翅の極意、ツマガタヒョウモンとツマスジヒョウモン等々。

参加は、笹川、久慈、松井、中西、三上、井村、高田、指田の八人。

【表紙デザイン：小 幡 英 典】

会員の動き・しやばの動き

一月二十日「よし久」で新年会

金沢駅周辺で地酒と加賀料理、十二人が楽しい一時を過ごした。この時一大事件が発生していたとは、誰も気付かず、仕事の都合で急遽欠席した会長は、思わぬところで難を免れる事になった。

猛威をふるう指田風邪

今年は、インフルエンザが猛威をふるっている。会員諸氏もほとんど風邪に倒れたが、その時期に奇妙な共通点があった。久慈、笹川、澤田の三氏は、一月二十一日・二十二日前後から風邪で寝込んでいる。三氏とも新年会に参加し、久慈氏と笹川氏は指田氏の隣に、澤田氏は指田氏の真向かいに座っていた。そう言えば、指田氏は風邪をひいて頭が痛いと言っていた。

道具は主人に似るのか？

寒い季節は腰が痛み、採集もそこそこに温泉に向かう。温めていないと調子が悪い。前に使っていたワープロは寒くなるとフロッピーの読み書きができなくなり、ドライヤーで温めて使っていた。今のマウスもドライヤーで暖めないと、カーソルが動かない。

福井県昆虫目録（第２版）

平成十年三月付けで発行され、掲載種は石川県の目録よりわずかに少ないが、種構成は大きく違う。福井はトビムシ、カマアシムシ等の土壌性昆虫で百種、カメムシで百種、コウチュウで五百種と石川に差を付け、石川はハチ、ハエでそれぞれ二百種、チョウで三百種差を付けている。

高田君、インドネシアへ八ヶ月

甲虫屋の高田君、この度金沢大学のドクターコースに進み、三月末から交換留学生となってジャワ島行きが決定した。かの地は政情不安だが、研究施設はジャングル内にあるので安全らしい。

昆虫館で大量消費を計画中

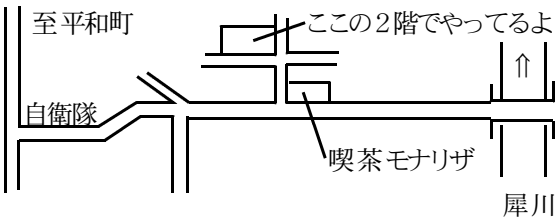
生態写真を得意とする小幡氏、ここ数年目が回るほど忙しく、フィールドへ出る機会がほとんど無い。撮影ペースもガタ落ちで、買い置きフィルムも数十本が期限切れ。もったいないので、昆虫館での大量消費を計画している。

奥能登輪島のオオムラサキ

奥能登のオオムラサキは、輪島と珠洲のそれぞれ一カ所しか知られていない。しかも輪島は、一九六五年以降の記録が無く、絶滅したものと思われていた。ところが、輪島在住の石畑正夫氏は、一九七二年に高洲山で多数確認した

翔 NO. 137
1999年４月１日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方
〒920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・５月・７月の第１木曜日８時から
TEL参加もOKです（076-244-3318）



目　次（137号）

富沢　章：石川県におけるムネアカセンチコガネの記録 …… 1
松井正人：手取川水系尾添川のギフチョウ …… 2
松井正人：１９９８年アサギマダラ日記 …… 3
嵯峨井淳郎：医王山におけるコキマダラセセリの追加記録 …… 7
細沼　宏：１９９８年沖縄採集旅行記 …… 7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き ……12